



弘前城本丸で

2024. 6. 3.

友人と私は思い立って、5月下旬に津軽に出かけました。今では、新幹線で東京から新青森まで三時間です。私達は、女学生時代を弘前でともに過ごしました。弘前城の本丸から、お馴染みの岩木山を見たいのです。津軽に来た！という実感が得られます。奥羽本線に乗り換えて、弘前に向かい、暫くして車窓からくっきりと岩木山の姿が見えました。私は晴女です！

今回もじっくりと眺めました。我がエルミタージュの西の空に富士山を望むことができますが、富士山は本当に高い山だと感じます。一方、岩木山は百名山に入っていますが、富士山の半分以下の1625mです。低い！でも、これがいいのです。大地にベッタリと横たわっているながら、美しい。そして、低いだけに、親近感を感じさせる、ホノボノとした温かみがあるのです。これは津軽衆の身びいきということでしょうか。ともかく私達は弘前に着いたらすぐにお城へ行こう、本丸から眺めようと言いました。



弘前駅の改札付近にこけしが並んでいました。こけしは東北の代表的な人形です。ここは弘前。こけしはねぶた灯籠です。縄文時代後期の遮光器土偶、青リンゴ娘を模したこけしで、津軽のイメージ、オンパレードです。長年、津軽を離れていた私たちの心に、帰って来たぞという思いをいだかせてくれます。

駅前のホテルにチェックイン、すぐに近くの叔母の家に「お線香をあげに行く」と言って挨拶に行きました。従姉妹がにこやかに出迎えてくれました。一息ついて、「では、お城へ。」現在100年ぶりの石垣修理の為、天守は70m 曳家されていました。



本丸で、うっとりとして岩木山を眺めていると、携帯が鳴りました。ガイドを頼んでいる土岐 司氏からです。「今、どこ？」「どこにいると思う？本丸で岩木山の真ん前よ！」「ワオ！これからどこに行くの？」「津軽三味線を聞きに あいや に」「俺も行く！」といった塩梅で、たちまち高校生時代にタイムスリップしてしまいました。